

事業計画書

事業種別	☐ 課題解決事業 ☒ 提案型協働事業（継続団体のみ）	
事業名称	マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ	
1 地域貢献、2 費用対効果		
解決を目指す地域課題や社会的課題	世田谷区のみどりの保全・創出に寄与するために、市民自らが管理・利活用する小規模公有地（マイクロ・コモンズ）を、共同管理する制度（スチュワードシップ）の創設を目指す。	
実施場所	世田谷区内の公有地内緑地部分	
期待される具体的な区民・地域への波及効果	「世田谷みどり 33」は、量的目標としての認知にとどまっているように見える。が、本来は量・質・協働の三位一体の行政方針であり、質の維持向上と協働を促進し、市民力をもってみどり／グリーンインフラの拡充を図る機運を醸成する上で、本事業は具体的な方策を示すものである。	
成果目標	共同管理制度の創設（マイクロ・コモンズ・スチュワードシップはあくまでもコンセプトを示すものであって、制度の名称は別途検討する） 新庁舎広場へのグリーンアップサイクル・プランター設置（みどり率 1 % 向上）	
成果目標の測定方法	3 タイプのマイクロ・コモンズ（以下 MC と略記する）の実践例の中での検証（参加者へのヒアリング）および広場へのプランター設置の方針化	
事業の対象者・予定人数	事業の対象者： みどりに関わる機会を求める一般区民・団体 （予定人数： 制度創出を目指す事業のため回答不能）	
総事業費	1, 5 0 0, 0 0 0 円	
補助金目標額 （寄附目標金額）	5 0 0, 0 0 0 円 （寄附目標金額： 1, 0 0 0、0 0 0 円）	
寄附金上限設定額	（設定する場合入力） 円	
3 新規性・創造性		
事業概要 （200～250 字程度に）	本事業は、世田谷区市民提案型協働事業として、既に 2 年間実施してきたものである。この 2 年間は、MC を 3 類型に分け、MC1： 公道（歩道）の植栽部分／MC2： 小規模公園・緑地／MC3： 新庁舎の奥所庭園と広場 以上それぞれについて実践例の観察（MC1・2）企画（MC3）に勉めた。 今後は、① 1・2 年目の活動を継続する傍ら、② 具体的な制度設計に着手することとなる。また、③ グリーンアップサイクルについては、商店街等での実証実験を試み、そのためにクラウドファンディングを行いたい。	
4 実現可能性		
事業実施期間	令和 7 年 7 月 1 日 ～ 令和 8 年 3 月 31 日	
実施内容 （いつ、だれが、何を するのか等、実施 する内容を具体的に ご記載くださ	※補助金交付決定後、事業開始から終了までスケジュールをご記入ください。	
	実施月	内 容
	7 月	MC1・2 観察・調査／MC3 ワークショップ準備
	8 月	MC3 屋上庭園ワークショップ
	9 月	スチュワードシップ素案策定
	3 月	スチュワードシップ初年度案策定

トラブルへの対応 (想定されるリスクとその対処方法)	コア・メンバー3名が常に情報共有し、トラブルが起きても直ちにリカバリーできる体制で臨む(∴ 対外的連絡も常に3名ccで行うこととする)。
5 将来性	
今後の展開 * 事業の発展や自立に向けての目標・考え方など	最終的には、次年度(令和8年)に制度案を完成し、翌年から直ちに新制度の下で、多くの「マイクロ・コモンズ」が誕生することを願ってやまない。 そのためには、現行の「みどりと花いっぱい協定」等によってもたらされている成果を、より多くの人々に広げていくとともに、新たな制度との整合をとる必要があり、いろいろとクリアすべき課題がある。 新庁舎広場へのプランター設置は、初年度からの目論見であり、課題としてしっかり共有したい。みどり率向上施策をどん欲に追求してこそ、新庁舎が掲げる「みどりの拠点」(「世田谷区本庁舎等における区民利用・交流拠点施設事業運営実施計画」に明記)たり得るというものではなかろうか。
8・9 クラウドファンディング	
実施希望時期 (最大3か月)	令和7年9月1日 ～ 令和7年11月30日
寄附を募るターゲット層	個人のみならず、環境意識の高い企業・団体にも広く訴求する。
広報活動計画	「せたがや生まれの【古着からできた】プランターでせたがやに緑を増やそう」というメッセージを、SNSやSDGs関連イベントなどの場を軸に訴求する。
寄附目標額を達成しなかった場合の対応	団体の自己資金で所用費用をまかなう。
寄附目標額を超えた場合の対応	次年度以降の最終目標設置数=200基を、実現するための原資とする(基金化)。
その他	
その他 * 提案する事業と団体の特徴、専門性、実績、提案、事業実施に向けたアピールなど	担当者らは、団体設立時からの理念である「グリーンコミュニティ」(初年度シンポジウムにおける基調講演のテーマ)のコンセプトを、最もよく知り・賛同する者であること 「古着から生まれたプランター」を具現化可能なノウハウ(グリーンアップサイクル)を熟知していること

団体名	世田谷ポートランド都市文化交流協会
-----	-------------------

【提案型協働事業のみ入力】 8・9 協働

協働する必要性	MCの実現の場は、公有地である公園緑地や庁舎施設であり、場の確保のためにも仕組みづくりのためにも、区との協働は必須である。 みどり政策課とは、世田谷みどり 33 協働会議が〈世田谷落ち葉ひろいりレー〉を協働事業として実施、令和6年度は10年目を迎えた。世田谷ポートランド都市文化交流協会もまた、令和3年以来、〈世田谷落ち葉ひろいりレー〉を後援しており、昨年は「落ち葉」のイベントと本協働事業とのコラボ企画も実現した。これらは広義のグリーンインフラ拡充を目指すものであり、団体の掲げる活動目標とミッションの多くが共有されている。今後ともますます官民協働で、同じ目標に向けて進んでいきたい。
役割分担 (提案団体)	広く知見とプレイヤーを外部個人・団体・機関に求める活動を推進する。 令和7年は初年度以来のMC事例の蓄積・分析により、現実的で有用なスチュワードシップ案作りに取り組む。
昨年度の協働事業の効果・実績	MC事例の蓄積（区道はっけんどおり事例スタートアップ／世田谷駅花壇・北島山5丁目広場等進展）／MC3 ワークショップ（「世田谷落ち葉ひろいりレーとのコラボ～李教授セミナーの組入れ」 以上による MC の再定義～制度策定のための課題の明確化
昨年度の事業内容と比較して、新しい点や工夫した点など	新フェーズとして、スチュワードシップ制度の制度設計にとりかかる。
協働事業を継続する理由	この事業の最終目的は、新たな制度の確立であり、それは「世田谷みどり 33」への市民的な取組の一つの解となるものである。ここでやめてしまつては。意味がない。是非続けさせてください。

【提案型協働事業のみ 区事業担当課入力欄】

区担当課名	みどり政策課／公園緑地課／庁舎管理担当課／都市計画課
協働する必要性	MC1～3を推進する上で、団体より区のコミットを求められた。 「みどり」と、それを管理・利活用するための仕組みづくりという目的は、協働する意義が大きい。「区民自治と協働・交流の拠点としての庁舎」を本庁舎等整備の基本的な方針に挙げている庁舎管理担当課にとっても、ワークショップの開催や検討を本提案型協働事業で行うことは有意義である。また、ワークショップ内で区民から貴重な意見等をいただき、本庁舎等整備事業の推進にも活かしている。 今年からいよいよスチュワードシップ制度の検討に入る。都市計画課との検討を、団体から強く求められている。
役割分担 (区担当課)	みどり政策課： みどりと花いっぱい協定による団体支援 (MC1)、世田谷落ち葉ひろいりレーでのコラボなど 公園緑地課： MC2 事例（2箇所）での活動許可、管理・利活用のあり方相談 庁舎管理担当課： 庁舎管理担当課： 新庁舎屋上庭園のワークショップ共催、屋上庭園および広場についての管理・利活用の検討 都市計画課： スチュワードシップ制度をめぐる相談

団体名	世田谷ポートランド都市文化交流協会
-----	-------------------

将来の展開	本事業の内容は、提案型協働事業としては成立しても、今後の課題解決事業の枠組みには収まりにくいものかも知れない。このような仕組みづくりの協働などがテーマとなり得る支援制度も検討されてしかるべきかもしれない。
-------	--

団体名	世田谷ポータルランド都市文化交流協会
-----	--------------------

事業収支予算書

☆今回提案する事業に要する予算のみ(×団体の年間予算)を入力してください。

【収 入】

費 目	内 容	金額(円)	内訳(積算根拠)
自己資金		0	
区補助金	提案型事業経費	500,000	
他補助金	クラファン寄付金	1,000,000	* 支出欄積載根拠に【寄】と記載あるもの
【収 入】合 計		1,500,000	※事業計画書「総事業費」、【支出】合計と同額

【支 出】

☆日常の運営経費(日常運営に要する人件費・消耗品費、事務所賃借料、光熱水費等)は補助対象外です。
必ず、募集要領5. 補助対象経費をご確認の上、ご作成ください。

費 目		内 容	金額(円)	積算根拠(品目・単価・数量等)
補助対象経費	人件費	① ワークショップ運営等	100,000	① @5.000×20人
		[小 計]	100,000	
	報償費	① 講師謝礼	40,000	① @ 20,000×1人
		② 制作費	100,000	② @100,000×一式(イラスト・デザイン)
		③ 撮影費	55,000	③ @ 27,500×2回(ワークショップ記録)
		④ 編集制作費	60,000	④ 30,000×2本(ワークショップ動画編集)
		[小 計]	255,000	
	交通費			
		[小 計]	0	
	需用費	① 苗木・花苗・種苗	50,000	① MC1・2 花壇用一式
		①…2 苗木	50,000	【寄】①…2 プランター用苗木一式
		② 培養土・肥料	5,000	② MC1・2 花壇用一式
		③ 園芸用具	20,000	③ MC1・2 作業用一式
		④ プランター	500,000	④ グリーンアップサイクルプランター試作一式
		⑤ コピー	20,000	⑤ 資料コピー一式
		[小 計]	645,000	
	役務費			
[小 計]		0		

費 目		内 容	金額(円)	積算根拠(品目・単価・数量等)
	委託料	① プランター設計	450,000	① グリーンアップサイクルプランター試作一式
		[小 計]	450,000	
	使用料・賃借料	① 会場レンタル料	22,000	① MC運営委員会等 @5,500 × 4回 ② イベント告知・PR用一式
		② 宅配便・郵送料	20,000	
		[小 計]	42,000	
	その他	① 資料代	8,000	① 事業用参考資料一式
		[小 計]	8,000	
	[補助対象経費 計]		1,500,000	※事業計画書「補助金要望額」と同額

費 目		内 容	金額 (円)	内訳(積算根拠)
補助対象外経費				
	[補助対象外経費 計]		0	

【支 出】合 計		1,500,000	※事業計画書「総事業費」、【収入】「合計」と同額
----------	--	-----------	--------------------------

☆必要に応じて、行を増やしてご作成ください。

団体名	世田谷ポートランド都市文化交流協会
-----	-------------------

添付資料3 **7 実施体制**

団 体 の 概 要

設立年月日 (活動開始)	2018 年 6 月 30 日			
法人番号 (該当団体のみ)				
団体の設立目的	この会は、豊かな自然と社会インフラを目指す世田谷をモデル地域とし「全米一住みやすいまち」と評されるオレゴン州ポートランドから持続可能なまちづくりを学び、人的交流を深め、双方の都市文化を理解することで、モデル地域およびその周辺地域の都市文化を向上させることを目的とする。 また、世田谷ならではの取り組み、地域文化や、セーフティネットの仕組みなどをポートランド側にも発信することで、相互に良質な方向に影響を高めていくことを目的とする。 (規約第3条)			
主な活動分野	■研究 ポートランドをはじめとする都市文化研究 ■啓発 ワークショップやシンポジウムなどの開催 ■交流 産官学民間および日米間の人的交流 ■協働 広範な市民の参加や実践、議論の場の創出 ■提言 グリーンインフラ政策にかかわる提言など			
社員数・会員数 (うち世田谷区在住)	個人・法人会員総計 41 人 (うち世田谷区在住 23 人)			
会費	無 ・ 有 (年額 月額 個人 5,000 円・法人 10,000 円～)			
主な活動地域	世田谷区と周辺地域			
主な活動実績	令和2年10月～：ポートランドまちづくりスクール開講(2期開催) 令和3年7月：ドーン・ウチヤマ氏(ポートランド市環境サービス局長)の翌年2月迄の日本滞在中、シンポジウム・見学会ほか交流を重ねる 令和7年3月：スティーブ・ブルーム氏 特別講演会「ポートランド日本庭園でレガシーを育む～進化の20年を振り返る」於 成城ホール			
運営状況(直近3年間)		令和3年度	令和4年度	令和5年度
	総収入	3,155,120 円	2,788,732 円	3,810,765 円
	総支出	1,593,907 円	722,911 円	936,846 円
	損 益	1,561,213 円	2,065,721 円	2,873,919 円
過去のクラウドファンディング活用実績	無 ・ 有 (サイト名： 、令和 年 月～ 月実施、達成額 円/目標額 円)			
当年度の活動予定	6 月 年次総会 11 月～ 世田谷落ち葉ひろいりレー2025 後援(世田谷観音会場イベント主催) *ほかに教育プログラムおよびセミナー実施予定(随時)			

団体名	世田谷ポートランド都市文化交流協会
-----	-------------------

事業実現のための体制（人材、連携・協働関係等）	内部体制： 会長・副会長・顧問を始め、会員に多くの学識経験者を有する。 当該事業推進に必要な実務経験者を、コアメンバーに配置している。 外部体制； 区役所内 4 課の伴走を得て実施する。 MC 事例の実践団体をはじめ、日頃より交流のある他団体・個人の協力を得る（例：MC3 ワークショップでは（一社）街の木ものづくりネットワークと協働することを申合せ済）。
-------------------------	--

事業名: マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ
団体名: 世田谷ポートランド都市文化交流協会

No.1

質問	市民に公共用地を含めた緑の管理を全面的に委ねるような制度を目指してほしいと思うが、創設を目指す共同管理制度の具体的なイメージについて教えてください。
回答	いかなる制度にするかは、本年度、協働の相手である市内各課と協議の上、方向性を定めたいと思います。

No.2

質問	「グリーンアップサイクルについては、商店街等での実証実験を試み、そのためにクラウドファンディングを行いたい」とあるが、実施内容のどこの部分がこれにあたるのか、実証実験はどのように行うのか、教えてください。
回答	実施内容に追記すべきかもしれませんが、以下のように考えます。 採用後 7月～9月末 専門家のプロジェクトチームをつくり、「プランター設計」「プロトタイプづくり」を行う。あわせて実証実験でプランターを設置してくれる商店街等との調整(*)を行う。 (*)具体的には、二子玉川商店街協力店舗の軒先、二子玉川エリアマネジメンツが運営管理する空間、現在グリーンアップサイクルの主旨に賛同し古着回収を実施している駒澤大学などの大学校内などを想定。(まだ調整は行っていません) 10月～12月 クラウドファンディング実施 1月 プランター製造 2月 プランター設置

No.3

質問	「プランター」として50万円、「プランター設計」として45万円計上されているが、内訳は同じく「グリーンアップサイクルプランター試作一式」となっている。どのような費用で、二つの項目がどう異なるのか、教えてください。
回答	「プランター設計」 公共空間に設置することを前提とするプランターのため耐久性のあるプランターを設計する必要があるために、建築・デザイン・園芸などの分野に長けている専門家や製作のプロを交えたプロトタイプづくりを行う。(7～9月) 「プランター」 プロトタイプをクラウドファンディングで提示し、集まった金額に応じて予算に応じた初期ロット分、実際に設置するプランターを製作する。(1月) このふたつの取組をまとめて「グリーンアップサイクルプランター試作一式」と記載しました。

No.4

質問	全体的に専門用語が多くやや難しいため、必ずしも専門知識を有しない一般区民からも広く理解を得やすいよう、過去2年間のお取組実績や成果などを分かりやすく教えてください。
回答	改めて提案書を読み直しましたが、耳慣れない用語は「マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ」と「グリーンアップサイクル」「グリーンコミュニティ」の三つかと思われ、「みどり」「グリーンインフラ」等の行政用語として頻出する専門用語の説明は省かせていただきます。 「マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ」 事業計画書冒頭に「世田谷区のみどりの保全・創出に寄与するために、市民自らが管理・利活用する小規模公有地(マイクロ・コモンズ)を、共同管理する制度(スチュワードシップ)の創設を目指す。」と明記したとおりです。地球規模で自然資産を考える際に定着している「グローバル・コモンズ」という呼称に対し、極小サイズであることから「マイクロ…」とし、共有資産を表す普通名詞「コモンズ」(但し、公有地・準公有地に限定し、私有地を除外する)、欧米諸国の先行事例として定着している「スチュワードシップ」制度、以上を組み合わせたものです。 (意味するところは「区民自らが共同管理・活用する小さなみどりをつくるしくみ」となります。) ただし、これも事業計画書に明記したとおり、「マイクロ・コモンズ・スチュワードシップはあくまでもコンセプトを示すものであって、制度の名称は別途検討する」とこととしたいと思っています。 「グリーンアップサイクル」 当団体のメンバー佐藤正一氏が代表を務める株式会社シナジーメディアの登録商標です。大量の衣料廃棄物をゴミとせず、新たな素材として生まれ変わらせる(アップサイクル)、そのフェルトに似た新素材に対して命名されました。プランター素材としての有用性は、1年目のワークショップでの実験からも明らかです(継続的に経過観察中)。

事業名: マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ
 団体名: 世田谷ポートランド都市文化交流協会

	「グリーンコミュニティ」 当団体の前代表・現顧問の涌井史郎氏の持論であり、かつ当団体の設立時からの目標とする社会像でもあります。1年目のシンポジウムでも取り上げました。良好な自然環境こそが社会の礎となることを、改めて確認したいと思います。以上を念頭に、わかりやすい説明を心がけたいと思います。
--	---

事務局

質問	令和6年度の選定結果通知にて、選定委員会の意見として以下の要望をお伝えいたしましたが、特に「区民への分かりやすさ」について、現在までの実施状況についてお教えてください。 【令和6年度選定委員会の意見(抜粋)】 世田谷らしい「マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ」の取組みを見出し、実現していくためには、理念や成果を区民に分かりやすく示すことが必要と考える。一方、「マイクロ・コモンズ」「スチュワードシップ」をはじめ、現時点ではまだ一般的とは言えない用語が多く用いられており、団体と区担当課の双方がこのことをしっかり認識し、区民への分かりやすさという点にも留意して、具体的な協働の姿を示していただくよう要望する。
回答	区民や担当課と共有すべきこととは、事業の目的や意義、成果目標であって、用語をつかいこなすことでも、広く普及させることでもないと考えております。制度名称とすることにも固執しないことは上述のとおりです。 理念や期待される成果は、実例をもって示すことが肝要だと考えます。そのため、1年目から3つのタイプのコモン各々で事例を作ることを行ってきました。さらにグリーンアップサイクルについては、広場へのプランター設置を共通目標としていただくことが必要であり、そのための具体的活動計画を組み立てていきたいと思っています。

事務局

質問	事業収支予算書より ・全体について 一式のみの記載や、単価・数量の記載がなく、事務局で補助対象経費かどうか判断できません。補助が決定した場合でも、募集要領6ページの補助対象経費ではない場合や団体の経常経費、クラウドファンディング資金獲得目的などは、補助できませんので、ご了承ください。 ・報償費の内、②製作費、③撮影費、④編集制作費は、謝礼でなく委託契約で、「委託料」ではないでしょうか。 ・使用料・賃借料の内、①会場レンタル料の4回が不明です。詳細をお教えてください。
回答	・「一式」という曖昧な表現をしてしまったことは申し訳なく思います。品目や単価・数量に不確定要素が多いため大枠を示すに留まりましたが、実際には規定に違わぬ正しい使途を心がけます。 ・「謝礼」改め「委託料」とします(採用された際に修正) ・会場レンタル料は、1年目・2年目同様、団体内での企画・運営のための会合で必要なものです。